

## ドイツ語 (初級 B) 第 27 回 不定詞の用法

範囲: 教科書 S. 64-66 (CD トラック 83-86)

### 《今回の基本例文》

96. Ich hatte die Gelegenheit, Frau Meier kennenzulernen. (CD83-3)

私はマイヤーさんと知り合う機会を持った。

[**zu 不定詞**の付加語的用法、**zu 不定詞** (分離動詞)]

97. Wir gingen ins Café, um gemütlich zu plaudern. (CD84-1)

くつろいでおしゃべりするため、私たちはカフェに入った。

[**um+zu 不定詞**]

98. Kann man den Direktor jetzt sprechen? – Nein, er ist jetzt nicht zu sprechen.

(CD85-1)

いま部長にお目にかかれますか? – いえ、いま部長はお会いできません。

[**sein+zu 不定詞**]

### 教科書第 16 課 B. 不定詞の用法 (S. 64)

#### 〈不定詞と不定詞句のまとめ〉 (補足)

◇ ドイツ語の文の基本構成要素は動詞の不定詞に目的語や修飾句を組み合わせた不定詞句であること、不定詞句の語順は日本語に近く最後を動詞の不定詞とすることについては、すでに述べた。(⇒教科書 S. 9、授業第 3 回配付資料 S. 2)

◇ 不定詞句は、基本的に「～する (こと)」の意味になる。

(例) Deutsch lernen ドイツ語を学ぶ (こと)

immer fleißig Deutsch lernen いつも熱心にドイツ語を学ぶ (こと)

◇ 完了不定詞 (不定詞の過去形、「～した (こと)」) は過去分詞 haben / sein (教科書 S. 50)、受動不定詞 (不定詞の受動態、「～される (こと)」) は過去分詞 werden である。

(例) Deutsch gelernt haben ドイツ語を学んだ (こと)

nach Berlin gefahren sein ベルリンに行った (こと)

von meinem Vater geliebt werden 私の父に愛される (こと)

\* もちろん、完了不定詞が haben か sein かは haben 支配か sein 支配かによる。

◇ ただし、不定詞句を文中で「～すること」の意味で使うには、基本的には不定詞の前に前置詞 zu を挿入して zu 不定詞句とすることが必要である。

\* 英語の to 不定詞に相当する。ただし、例によって語順はまったく異なる。

(例) Deutsch zu lernen ist nicht leicht. ドイツ語を学ぶことは簡単ではない。

To learn German is not easy.

◇ 完了不定詞を zu 不定詞句にするときは haben や sein の前に、受動不定詞を zu 不定詞句にするときは werden の前に zu を置く。

- (例) Deutsch gelernt zu haben ドイツ語を学んだ（こと）  
nach Berlin gefahren zu sein ベルリンに行った（こと）  
von meinem Vater geliebt zu werden 私の父に愛される（こと）

◇ 分離動詞を zu 不定詞句にするときは、前綴りと基礎動詞のあいだに zu を挿入して一続きに書く。 分離動詞の過去分詞に近い書き方。

- (例) an|kommen → anzukommen  
teil|nehmen → teilzunehmen

### 教科書1 zu のない不定詞

◇ zu なし不定詞をそのまま「～すること」の意味で使用できるのは、

- ・慣用表現の場合。

(例) Irren ist menschlich. 過ちは人の常 (To err is human.)。

・目的語や修飾句の要素がない動詞一語につき、語頭を大文字にする場合。 中性名詞扱いになるので、中性の定冠詞 das がつく場合もある。

(例) Mein Hobby ist [das] Lesen. 私の趣味は読書です。

\* 英語の動名詞 (-ing 形) に近い。

◇ 中性名詞扱いの zu なし不定詞を用いた重要表現としては、以下のものがある。

- ・beim + zu なし不定詞：「～する際に」

・gerade beim zu なし不定詞 sein：「ちょうど～しているところである」

\* ドイツ語には現在進行形がなく、英語の現在進行形は一般に現在形で代用するが、どうしても「ちょうど～している」と言いたい場合、この表現を使えばよい。

- ・zum + zu なし不定詞：「～するために」

### 教科書2 zu 不定詞 (S. 65)

◇ 英文法の to 不定詞の場合、名詞用法、形容詞用法、副詞用法の3つで説明されることが多い。

・名詞用法：To learn German is not easy. ドイツ語を学ぶことは簡単ではない。

・形容詞用法：He is not a man to tell a lie. 彼は嘘をつくような人ではない。

・副詞用法：He went to Berlin to see the sights. 彼は観光するためにベルリンに行った。

教科書ではドイツ語の zu 不定詞句の用法を主語、述語内容語、目的語、付加語の4つとしているが、上記の英語とは次のように対応している。

・名詞用法 → 主語、述語内容語、目的語

・形容詞用法 → 付加語

・副詞用法 → 単体ではなし。um ... zu 不定詞（後述）を用いる。

◇ zu 不定詞句の語順については、長いものについては特に、コンマのあとで枠構造の外に出すことが好まれる。

◇ a)の主語用法は、「～すること」を表す zu 不定詞を文の主語とする用法である。ただし、主語が長くなることは好まれないため、**仮主語の es** を使うときが多い。その場合、zu 不定詞は枠構造の外に出される。

\* 仮主語 es を使うのは、従属の接続詞のときと同じ。 (⇒教科書 S. 35)

◇ b)の述語内容語用法は、「～すること」を表す zu 不定詞を文の述語内容語とする用法である。もちろん、述語内容語をとる自動詞 (sein, werden, bleiben, scheinen...) とともに用いられる。

◇ c)の目的語用法は、「～すること」を表す zu 不定詞を文の目的語とする用法である。もちろん、4格目的語をとる他動詞とともに用いられる。この場合、**仮目的語の es** を先行させるのが好まれる。

◇ c)の目的語用法のうち、zu 不定詞が前置詞の目的語となる場合、**必ず前置詞と人称代名詞の融合形**を先行させる。 (⇒教科書 S. 27)

(例) Ich freue mich darauf, dich wiederzusehen.

君に再会することを、私は楽しみにしている。

← Ich freue mich ~~auf~~-es, dich wiederzusehen.

\* auf <sup>et</sup>, sich freuen (〈4格〉)を楽しみにしている)の <sup>et</sup>の部分に仮目的語の es を入れると、ドイツ語では前置詞+es は必ず前置詞と人称代名詞の融合形になってしまう。

◇ d)の付加語用法は、文中の一つの名詞を zu 不定詞句で修飾する用法である（「～する...」）。付加語用法の zu 不定詞は原則として直前の名詞を修飾するが、zu 不定詞句が長くなる場合、やはり枠構造の外に出して修飾される名詞から離れることがある。

(例) In Deutschland hat er die Gelegenheit gehabt, Frau Meier kennenzulernen.

彼はドイツで、マイヤーさんと知り合う機会があった。

\* In Deutschland hat er die Gelegenheit, Frau Meier kennenzulernen, gehabt.でも間違いではないが、文体的には好まれない。

◇ e)にあるのは、特定の**前置詞と zu 不定詞を結んだ熟語表現**である。前置詞はその zu 不定詞の直前に置かれる。

(例) Deutsch zu lernen ドイツ語を学ぶ (こと)

→ um Deutsch zu lernen ドイツ語を学ぶために

前置詞+zu 不定詞のまとめは下表の通り。

	前置詞+ <u>zu</u> 不定詞	意味	(英語)
1)	<u>um</u> ... <u>zu</u> 不定詞	～するために	<i>in order to-inf.</i>
2)	<u>ohne</u> ... <u>zu</u> 不定詞	～することなしに	<i>without -ing</i>
3)	[ <u>an</u> ]statt ... <u>zu</u> 不定詞	～する代わりに	<i>instead of -ing</i>

◇ f)~h)にあるのは、特定の**動詞と zu 不定詞を結んだ熟語表現**である。

・f)の sein+zu 不定詞は、**受動の可能**（「～されうる」）もしくは**受動の義務**（～されねばならない）を表す受動的表現であり、können や müssen などの話法の助動詞で書き換えることができる。（⇒教科書 S. 66 の Übung 3）

（例）Ist Herr Müller zu sprechen?

= Kann man Herrn Müller sprechen?

\* Herr が特殊変化の名詞であることに注意。（⇒教科書 S. 18）

Die Miete ist im Voraus zu zahlen.

= Man muss im Voraus die Miete zahlen.

\* im Voraus あらかじめ、前もって

・g)の haben+zu 不定詞は**義務**を表し、müssen などの話法の助動詞で書き換えられる。英語の have to...とまったく同じ。

（例）Wir haben noch eine Stunde zu fahren.

= Wir müssen noch eine Stunde fahren.

これらの動詞+zu 不定詞のまとめは下表の通り。

	動詞+zu 不定詞	意味	(英語)
f)	sein+zu 不定詞	～されうる、～されねばならない	be to-inf.
g)	haben+zu 不定詞	～しなければならない	have to-inf.
h)	brauchen+zu 不定詞	～する必要がある	need to-inf.
	scheinen+zu 不定詞	～のように思われる	seem to-inf.

◇ 英語では、前置詞 for によって to 不定詞に文の主語とは別の意味上の主語をつけることができる。一方、ドイツ語の zu 不定詞には、このような用法はない。

### 教科書 Übung 2 (S. 66)

3. an *jm./et<sup>3</sup>*. vorbei | gehen は分離動詞の自動詞で、「*jm./et<sup>3</sup>*.のかたわらを通り過ぎる」の意味。

### 教科書 Übung 3

1. aus | füllen は分離動詞の他動詞で、「～（様式など）を穴埋めする」の意味。

#### 連絡先など

教員のメールアドレス：token@nifty.com 教員のウェブサイト：http://hhasegawa.la.coocan.jp/

授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/